県高校新人大会

県高校新人大会は19日、宮崎市のひなた県総合運動公園で3競技を行った。陸上は男子棒高跳びの甲斐楽海（宮崎第一）が大会新記録の4㍍61で優勝。100㍍は男子が中原佑（宮崎工）、女子は小島光琉（宮崎北）が制した。

競泳は、男子400㍍個人メドレーの待鳥堅太郎（宮崎日大）が19年ぶりの大会新記録となる4分39秒82で優勝。女子200㍍バタフライの高橋ハナコ（同）は、自身の持つ県高校記録を塗り替える2分17秒13で頂点に立った。女子50㍍背泳ぎは児玉沙穂（同）が31秒17、男子400㍍メドレーリレーは宮崎大宮が4分6秒20で勝ち、いずれも大会新だった。

ソフトボールは男女ともに予選リーグを実施。男子は日向工、日向、延岡工、宮崎工が決勝トーナメントに進出。女子は宮崎日大、都城東、日向、日南学園などが8強入りした。

甲斐（第一）棒高 大会新4㍍61

◇陸上第2日（ひなた陸上競技場）

【男子】100㍍①中原佑（宮崎工）10秒81②黒田（同）10秒86③藤本（同）10秒94▽5000㍍①西優斗（宮崎日大）15分30秒48②宮田（同）15分31秒69③一條（小林）15分32秒43▽400㍍障害①福重佑規（都城西）56秒57②正覚（宮崎工）56秒85③石ケ野（同）58秒03▽棒高跳び①甲斐楽海（宮崎第一）4㍍61＝大会新②長嶺（宮崎工）3㍍70③今村（宮崎第一）3㍍50▽三段跳び①谷口陽斗（宮崎工）14㍍04②橋本（宮崎南）13㍍56③深水（宮崎工）13㍍14▽砲丸投げ①長谷川毅（宮崎工）11㍍74②眞方（宮崎第一）10㍍59③金丸（日南学園）10㍍54▽円盤投げ①宮下晴大（都城西）35㍍03②田中（宮崎工）31㍍47③古城（都農）30㍍09▽八種競技①田中慎貴（宮崎工）3946点（100㍍11秒61、走り幅跳び6㍍15、砲丸投げ9㍍10、400㍍56秒84、110㍍障害18秒70、やり投げ36㍍13、走り高跳び1㍍65、1500㍍5分54秒05）②藤井（日南）3751点③渡邊（延岡学園）3342点

【女子】100㍍①小島光琉（宮崎北）12秒54②荒木（延岡）、福島（宮崎工）12秒55▽400㍍障害①野崎希香（宮崎南）1分4秒84②高田（都城西）1分6秒13③福元（宮崎南）1分6秒15▽棒高跳び①川越梨央（宮崎第一）2㍍30②後藤（宮崎工）2㍍20③矢野（延岡商）2㍍00▽走り幅跳び①山本華（宮崎南）5㍍50②作本（日南）5㍍42③染原（宮崎北）5㍍36▽円盤投げ①高野千莉（都城西）33㍍55②中村（宮崎第一）33㍍45③吉野（宮崎工）31㍍13

男子棒高跳びを大会新記録の4㍍61で制した甲斐楽海（宮崎第一）

けが乗り越え飛躍

○…故障を乗り越え、一気に飛躍した。男子棒高跳びの甲斐楽海（宮崎第一）は自己ベストを41㌢も上回り、大会記録も1㌢更新。「まさか、こんな記録を出せるなんて。信じられない」。会心の試技に声が弾んだ。

昨年の県総体は1年ながら4㍍00で3位。その年の秋、腰椎分離症を患った。「お辞儀するだけで痛かった」。順調に成長を遂げ、追い込むはずだった冬季。悔しさを胸にしまい、治療と「できること」に専念した。

練習に欠かさず顔を出して上半身の筋トレを黙々とこなし、体が一回り大きくなった。完全復帰から3カ月後の今大会、「硬いと感じていたポールが曲げられるようになった」と実感。自己タイ記録の4㍍20を軽々と跳び、4㍍40も一発クリア。大会新の4㍍61は「助走、踏み切り、空中動作、すべてがかみ合った」3本目で成功した。

続く目標は九州新人の大会記録4㍍82。「もっとパワーを付ければ、より反発力が強いポールを操れる。地道に努力を重ね、記録を伸ばしていきたい」とレベルアップを誓った。（矢野剛士）

空手

第一 男女で頂点

【男子組手団体決勝リーグ・宮崎第一―宮崎工】上段蹴りでポイントを奪う宮崎第一の高橋（左）

主将高橋 勢い呼ぶ

○…目標の「団体アベック日本一」へ、好スタートを切った。宮崎第一が男女ともに組手団体を圧勝し、組手個人も出場した全階級を制覇。花車泰平監督は「一人一人が高い意識を持って戦ってくれた。次につながる」と納得顔だった。

中でも、男子の高橋遥音主将が圧倒的な強さを見せた。新チームの柱を任され「気合が入っていた」といい、力強い突きと切れ味の鋭い上段蹴りを次々と繰り出す。個人61㌔級（3試合）に加え団体で出場した計6試合で1㌽も与えず、チームに勢いを呼び込んだ。

「日本一に挑戦できなかった先輩の分まで、自分たちが頑張る」と高橋主将。6人いた3年生は現在も練習に足を運び、稽古の相手や道具の準備など献身的にサポートしてくれている。女子の橋口妃真莉主将は「1年生のころから多くのことを教わった。絶対に日本一になって恩返ししたい」と口元を引き締めた。（矢野剛士）

（ひなた武道館主道場）

【男子】組手団体決勝リーグ＝宮崎第一4―1日章学園、宮崎第一5―0宮崎工、宮崎第一5―0宮崎海洋、宮崎第一5―0小林秀峰、日章学園5―0宮崎工、日章学園5―0宮崎海洋、日章学園4―1小林秀峰、宮崎工3―1宮崎海洋、小林秀峰3―2宮崎工、小林秀峰3―1宮崎海洋

▽最終成績①宮崎第一4勝②日章学園3勝1敗③小林秀峰2勝2敗④宮崎工1勝3敗⑤宮崎海洋4敗

▽組手個人55㌔級準々決勝＝吉永（宮崎工）0（判定）0児波（宮崎海洋）、久保（宮崎第一）8―0関本（富島）、大迫（小林秀峰）1―0小川（日南学園）、坂本（宮崎工）3―0伊藤（宮崎海洋）▽準決勝＝久保9―0吉永、大迫3―2坂本

▽決勝

久保 雅人 8―0 大迫 太尊

▽同61㌔級1回戦＝上原（小林秀峰）0（判定）0境（宮崎海洋）、高橋（宮崎第一）6―0兼光（日章学園）▽準決勝＝上原0（判定）0森（日南振徳）、高橋8―0永江（小林秀峰）

▽決勝

高橋 遥音 8―0 上原 兼慶

▽同68㌔級1回戦＝富永（宮崎第一）6―0山之内（富島）、林（宮崎第一）9―0大塚（日章学園）

▽決勝

富永 尚輝 2―0 林 玲英

▽同76㌔級決勝

三輪 和生 8―0 大田 雄大

（日章学園） （小林秀峰）

▽同76㌔超級決勝

永野 聖也 0―0・増田 芳貴

（宮崎工） （判定） （宮崎工）

▽南九州ブロック大会枠決定1回戦＝林（宮崎第一）8―0大田（小林秀峰）▽同決定戦＝林8―0上原（小林秀峰）、増田（宮崎工）0（判定）0大迫（小林秀峰）、上原6―0大迫

▽形団体1回戦（各組1位は決勝へ）1組①宮崎第一②宮崎海洋▽同2組①日章学園②小林秀峰

▽決勝

①宮崎第一24・8点②日章学園21点

▽形個人2回戦（各組1位は決勝、2、3位は3位決定戦へ）1組①岡園（宮崎第一）②山之内（富島）③大田（小林秀峰）④児波（宮崎海洋）▽同2組①井崎（宮崎西）②奥村（宮崎第一）③小川（日南学園）④関本（富島）

▽3位決定戦 小川、奥村＝3位

▽決勝

①岡園陽向24・8点②井崎24・6点

日章学園・三輪和生主将（男子形団体2位）「優勝した宮崎第一は呼吸の合わせ方や技の切れが全然違い、自分たちの力不足を痛感した。もっと練習を重ねて、少しでも追い付きたい」

【女子】組手団体決勝リーグ＝宮崎第一5―0宮崎工、宮崎第一5―0宮崎海洋、宮崎第一5―0日章学園、宮崎第一5―0富島、日章学園3―1宮崎工、日章学園2（得失点差）2宮崎海洋、日章学園3―2富島、富島4―0宮崎工、富島4―1宮崎海洋、宮崎海洋2―1宮崎工

▽最終成績①宮崎第一4勝②日章学園3勝1敗③富島2勝2敗④宮崎海洋1勝3敗⑤宮崎工4敗

▽組手個人48㌔級準々決勝＝甲斐（富島）5―0桑原（宮崎海洋）、花車（宮崎第一）8―0川野（日章学園）、國料（宮崎第一）8―0児玉（宮崎海洋）、宮脇（宮崎海洋）8―0東（延岡商）▽準決勝＝花車4―0甲斐、國料6―0宮脇▽3位決定戦＝甲斐1―0宮脇

▽決勝

花車 美空 3―0 國料 和奏

▽同53㌔級準々決勝＝橋口（宮崎第一）9―0谷口（宮崎工）、濱砂（日章学園）8―0是滝（富島）、伊藤（延岡商）1―0嶋田（宮崎工）、橋本（宮崎第一）8―0田中（日南学園）▽準決勝＝橋口1―0濱砂、橋本7―6伊藤▽3位決定戦＝濱砂8―0伊藤

▽決勝

橋口妃真莉 3―2 橋本 愛梨

▽同59㌔級1回戦＝柳田（日章学園）8―0蓑毛（富島）

▽決勝

柳田 彩佑 8―0 須川 陽

（富島）

▽南九州ブロック大会枠決定リーグ戦＝甲斐（富島）4―0蓑毛（同）、濱砂（日章学園）8―0蓑毛▽最終順位①甲斐、濱砂1勝＝同大会枠獲得③蓑毛2敗＝落選

▽形団体1回戦（各組1位は決勝へ）1組①宮崎第一②宮崎海洋▽同2組①日章学園②富島③宮崎工

▽決勝

①宮崎第一24・6点②日章学園22・2点

▽形個人2回戦（各組1位は決勝、2、3位は3位決定戦へ）1組①橋本（宮崎第一）②柳田（日章学園）③田中（日南学園）④東（延岡商）▽同2組①松田（延岡商）②濱砂（日章学園）③花車（宮崎第一）④甲斐（富島）▽3位決定戦 柳田、濱砂＝3位

▽決勝

①松田もも24・4点②橋本23・2点

延岡・松田もも（女子形個人優勝）「スピード感のある突きや蹴りを意識して、一つ一つ丁寧な動きを心掛けた。優勝できたことは今後の自信になる。九州や全国で活躍できる選手になりたい」